



■発行所/(株)びゅ〜すまいる編集舗・みまもり未来プレス編集部  
 ■2026年2月19日発行号 ■発行者・編集人/八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

クロスブレイン

<http://cross-brain.co.jp>

## BAドライバー搭載『きこエールPRO』先行販売

音量では補えない“聞こえづらさ”へ

クロスブレイン(大阪市北区)は、集音器ブランド『きこエール』の最上位モデルとなるワイヤレスイヤホン機能付き集音器『きこエールPRO』の先行予約販売を、クラウドファンディングサイト「GREEN FUNDING」にて開始した。期間は2026年2月18日から4月30日まで。早期支援者向けの割引リターンも用意している。プロジェクト終了後は一般販売も検討しており、メーカー希望小売価格は29,700円(税込)を予定している。



「子音」を明瞭にする新構造

年齢を重ねると、高音域から徐々に聞き取りづらくなる傾向がある。とくに言葉の輪郭をつくるサ行・タ行などの「子音」は高周波成分を多く含み、聞こえにくくなることで「声は聞こえるのに内容がはっきりしない」「聞き間違いが増えた」といった状態が起りやすい。単純に音量を上げるだけで

は、既に聞こえている音まで強調され、キンキンと響く違和感につながる場合もある。

本製品は、人の声の再生に強い「バランスド・アーマチュア(BA)ドライバー」を搭載。補聴器にも採用される方式で、中高音域をクリアに再生し、聞こえづらくなった帯域を重点的にサポートする。さらに、スピーカーを鼓膜に近づけた3Dロングノズル構造に

より、効率よく音を届ける設計とした。「最近、会話を聞き返すことが増えた」「テレビの音量が大きくなりがち」といった悩みに対し、無理に音量を上げるのではなく、“言葉をはっきりさせる”という発想で応える一台である。家族との会話や外出先でのコミュニケーションを、より自然に楽しむための選択肢として提案している。

シニアが元気になると  
日本が元気になる！

元気シニア倶楽部  
会員募集中!!

—入会費・年会費なし—

一般社団法人

日本元気シニア総研

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-4-5 第3伊藤ビル4階  
tel.050-5533-3100 fax.03-5791-5859 Email. info@genkisenior.com



# 水素燃料電池で切り拓く地域モビリティ

——脱炭素と移動課題を同時に解決へ——



ロボデックス(横浜市旭区)は、ELEMOS(千葉市美浜区)、ユナイテッド・ソリューション(広島市南区)、ブレイズ(名古屋市中村区)の3社と業務提携を締結し、水素燃料電池を活用した小型モビリティの共同開発を開始した。水素ドローンで培った小型水素タンクおよび燃料電池技術を応用し、EVモビリティが抱える航続距離や充電時間の課題解決を図る取り組みである。

今回の共同開発では、高齢者向けの免許不要モビリティ、三人乗り電動モビリティ『PICNIC』、EVデリバリーバイクなど複数の用途を想定す

る。いずれも水素燃料電池を搭載することで、タンク交換による短時間のエネルギー補給を可能とし、連続利用時の稼働効率向上を目指す。走行時にCO<sub>2</sub>を排出せず、静音性にも優れる水素エネルギーは、住宅地や地域密着型サービスとの親和性が高い点も特長である。

## 高齢化社会と生活インフラを支える選択肢

高齢化の進展により、免許返納後の移動手段確保は地域社会の重要課題となっている。公共交通の縮小が

進む地方では、買い物や通院といった日常移動が困難になるケースも少なくない。また、子育て世帯における「セカンダリー問題」や、拡大するデリバリー需要への対応など、生活インフラを巡る課題は多様化している。

水素燃料電池のマルチユース化は、こうした複数の課題を横断的に支える基盤となり得る。モビリティだけでなく、ドローンや発電機とも規格を共通化することで、平時は移動手段として、有事には非常用電源として活用する構想も視野に入れる。自己放電や長期保管時の劣化といった従来バッテリーの課題を補完できる点も強みである。

地域に寄り添う移動手段の開発を通じ、脱炭素を「特別なもの」ではなく日常の選択肢へと落とし込むことが、本プロジェクトの狙いである。水素エネルギーの社会実装を見据えた次世代モビリティ基盤の構築が、持続可能な地域社会づくりの一歩となるか注目される。

<https://robodex.net/>

アイデアの**商品化**を推進する 発明事業化促進  
身近な**発明展**  
身近な**ヒント**

特許料  
3億円!

アイデア  
募集中

特許料  
6千万円!

発明家たちの  
登竜門

企業の  
新製品  
開発に



小さな創造を社会に活かす  
一般社団法人**発明学会**

<https://www.hatsumei.or.jp/>

# こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!!』

ブレン・モンジュ・林野均の「シニア`萬、遊記」第101回

## 冬は低体温症に注意を!

年を越し、2月になりましたが、まだまだ寒い気温が続くと思います。寒さで気をつけたいのが、国内で毎年100人以上が亡くなる低体温症です。

低体温症とは臓器などの深部体温が35℃以下になることです。低体温症の発生場所は屋内が約80%、屋外が約20%と、圧倒的に屋内が多くなっています。低体温症の搬送者の年齢は65歳以上の高齢者が85%で、それは、高齢者は加齢によって、①基礎代謝が低下し、熱を生み出しにくい。②温冷感が鈍くなり、寒さに気がつきにくい、からだそうです。高齢者の方は特に注意が必要です。

また、日本の家屋は低体温症を引き起こしやすい構造になっているようです。WHOが推奨している冬

の部屋の温度は18℃以上ですが、調査によると日本の冬の室内の平均室温は16.8℃、また寝室は平均12.8℃、脱衣所は平均13℃となっているようです。これは、住宅の断熱性能が低く、床面が冷えやすいことに加え、コールドドラフト現象が原因ではないかと言われています。コールドドラフト現象とは、室内の暖かい空気が冷えた窓ガラスに触れて冷やされ、冷気となって床面を伝い、足元へ流れ込むことです。床が冷えると身体も冷え、血管が縮み血圧も上昇して、血圧の急変動や最悪の場合、脳梗塞を発症するリスクもあります。

コールドドラフト現象の対策としては、①暖房器具を窓の近くに置き、窓の下で暖かい空気を発生させることで窓の表面温度が上昇し、

部屋全体が暖かくなります。②サーキュレーターや扇風機などを回し、部屋上部にたまった暖かい空気を攪拌させることで上下の温度差がなくなります。③窓に気泡緩衝シートを貼るか、厚手で床まで届く丈の長いカーテンに変えることで、窓によって空気が冷やされるのを防ぎ、窓付近の下降気流を抑制できます。

上記のような対策をして、夏の熱中症だけでなく冬の低体温症にも十分気をつけましょう。



\*画像はイメージです

Author / 林野 均 (はやしのひとし)

プランニング・ブレン・モンジュ代表 / 一般社団法人 日本元気シニア総研研究委員

『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。 <https://planningbrain.com>



デイサービス生活相談員ネットワークの  
『生活相談員』講座

ちっちゃいマメをおっきく育て、  
夢のある未来を創造します。

株式会社スリービーンズ

<http://3beans.jp>

Let's enjoy your senior life

元気なシニアライフを  
応援します!

<https://planningbrain.com>

シニアのためのコンシェルジュ

プランニング・ブレン・モンジュ  
tel. 090-3682-3310

## 交通系 IC と連携する見守り GPS

### 『BoT トーク』 にウォレット機能搭載モデル登場

ビーサイズ(横浜市港北区)は、子ども見守りGPS『BoTトーク』のシリーズ第6世代モデルを発売した。新モデルには、交通系ICカードと連携する「見守りウォレット機能」を搭載。位置情報の把握に加え、移動や支払いの状況までアプリ上で確認できる仕組みを導入した。

本機能では、端末と交通系ICカードを一緒に持ち歩くことで、ICカードの残高確認のほか、自動改札の入出場履歴や買い物の利用状況をタイムリーに把握できる。対応カードは『Suica』『PASMO』『ICOCA』『manaca』『TOICA』など主要交通系ICカードに対応する。残高は改札や決済端末へのタッチを検知して更新される仕組みである。

#### 自立を促しながら 安心を支える見守り設計

共働き世帯の増加や少子高齢化の進行により、日中に保護者が家庭を留守にするケースは増えている。一方で、子どもは成長とともに通学や習い事、友人との外出など行動範囲を広げ、交通機関の利用や一人での支払いを経験する機会も増えていく。同社調査によれば、子どもの一人行動に不安を



感じる保護者は約6割にのぼり、一定の制限を設けている家庭も少なくないという。

『BoTトーク』は、AIが移動履歴や音声メッセージを学習し、家庭ごとに最適化された見守りを行う日本発のAI見守りサービスである。手のひらサイズの端末を持ち歩くだけで位置情報を通知し、音声メッセージの送受信も可能。さらに音声AI機能により、子どもの声をテキスト化し、保護者の入力文を音声で代読することもできる。

今回の「見守りウォレット機能」は、管理や監視を強めるのではなく、必要ときに状況を確認できる安心を提供することを目的とする。見守りすぎず、離れすぎない適度な距離感を保ちながら、子どもの自立や挑戦を後押しする設計である。

交通系ICと連携する見守りウォレット機能は2026年3月より利用開始予定である。移動と決済の両面を支える新たな見守りの形として、今後の広がりが見込まれる。

「食」を真剣に考えるひとのための資格！



www.flanet.jp

食生活アドバイザー®の  
活躍のフィールドはとっても広い

- 生産、流通、販売などの現場で
- 医療、福祉などの現場で
- 飲食の現場で
- 学校、家庭などで

食生活アドバイザー

検索

CLICK!

フリーダイヤル 0120-86-3593 TEL 03-3371-3593



一般社団法人

FLAネットワーク協会 (Food & Lifestyle Adviser)

食生活アドバイザー® 検定事務局